

平成 21 年 3 月

# 松浦治代 学位論文審査要旨

主 査 渡 邊 達 生  
副主査 難 波 栄 二  
同 福 本 宗 嗣

## 主論文

Suppression of chemokine gene expression and production in LPS-stimulated macrophages by a 130 kDa glycoprotein from plerocercoids of *Spirometra erinaceieuropaei*

(マンソン裂頭条虫擬充尾虫由来の130 kDa糖タンパクによるLPS活性化マクロファージのケモカイン遺伝子発現および産生の抑制)

(著者：松浦治代、富奥あすみ、廣野聡子、蓼本早百合、福本宗嗣)

平成21年 Yonago Acta medica 掲載予定

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はマンソン裂頭条虫擬充尾虫が分泌するES物質から130 KDaの糖タンパク (ES130) を精製し、この因子によるLPS活性化マクロファージのケモカインの遺伝子発現やケモカインの産生に対する影響を検討したものである。その結果、ES130はLPS刺激3時間後のマクロファージのRANTES、MIP-2、IP-10の遺伝子発現を抑制し、LPS刺激8時間後と24時間後のマクロファージのMIP-2およびIP-10の遺伝子発現とこれらのケモカイン産生を抑制した。LPS刺激8時間後と24時間後のRANTESの遺伝子発現は抑制されなかったが、RANTESケモカイン産生の抑制が示された。本論文の内容は、マンソン裂頭条虫の幼虫の分泌因子中にLPS活性化マクロファージのケモカイン産生を抑制する因子を見出し、寄生虫の宿主への適応の機序を明らかにしたもので、明らかに学問の水準を高めたと認める。